

令和5年度小松市立那谷小学校 学校評価2

| | 目標・具体的取り組み | 取組の状況（中間・8月提出） | 改善策 |
|-----------------|--|--|--|
| 生徒指導（安井） | 〈明るいあいさつをし、よりよい関係を築く〉 | <ul style="list-style-type: none"> 企画委員会を中心にあいさつ向上の取り組みを行った。児童アンケートの「いつでも・どこでも気持ちの良いあいさつができています」という質問に対して、よくあてはまる22人、あてはまる6人、あまりあてはまらない2人であった。よくあてはまる、あてはまると回答した児童は全体の90%だった。 たてわり活動を取り入れたり、サミット実行委員の呼びかけで各委員会からの取り組みを行った。児童アンケートの「学校は楽しいですか」という質問に対してよくあてはまる23人、あてはまる6人、あまりあてはまらない2人という結果で、よくあてはまる、あてはまると答えた児童は全体の93%だった。 | <ul style="list-style-type: none"> 目標としていた数値には届かなかったが、多くの児童が肯定的な回答をしている。朝の様子では高学年から元気なあいさつができているとのことだった。これからも日頃の指導や、あいさつの企画等を通してよりよいあいさつができる学校を目指していきたい。 目標としていた90%を超えることができたが、否定的な回答が2名だった。これからも行事や委員会を通して児童が主体的に取り組める活動を行っていく。また、児童が達成感を味わえるような声掛けを意識して行ない、気になる児童については児童理解の会をはじめ、こまめに情報共有を行っていく。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの「いつでも・どこでも気持ちの良いあいさつができています」という質問に対し、できている、]どちらかといえばできていると答える児童が95%以上を目指す。そのために企画委員会を中心にあいさつ向上を目指す取り組みを行い、あいさつに対する意識の向上を図る。 児童アンケートの「学校は楽しいですか」という質問に対して楽しいと答える児童が90%以上を目指す。そのために生徒指導の3機能を生かした授業づくりを推進し、児童が達成感をもち楽しいと思える授業作りを進めていく。 | | |
| 特別支援教育 | 〈個に応じた指導〉 | <ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケート「児童の実態や思いに合った授業に取り組んでいる」「児童が成長できる場の設定に取り組んでいる」に肯定的な回答は、100%であった。 児童が「自分は成長した」と肯定的な回答は100%であった。普段から教職員が意識して取り組んでいる成果である。 | <ul style="list-style-type: none"> 少人数だからこそ個の見取りが十分に行える。しかし、すべてにおいて支援してしまうことがあるため、本当に必要な部分の支援は何かを見極め、適切に支援してあげるよう教職員間での情報共有を引き続き行っていく。 児童自身でよさを振り返ることができるよう、声かけやコメントの記入を続けていく。また、児童同士でよさを伝え合うような場の設定や機会を工夫していく。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 個の見取りを十分に行い、必要な場合は必要な部分においての支援を行う。 児童が自分の良さを実感できるような声かけやコメントなどを意識して行う。 | | |
| 読書教育（道場） | 〈読書の質と量を高める〉 | <ul style="list-style-type: none"> 必読書を児童の発達段階にあったものに選定し直し、ブックトラック等の配置など、本を手に取りやすい環境に整えてきたことで、低学年は42%、高学年は75%達成し、読破率も上がってきている。しかし、学年によって読破率や読書量に差があった。 図書委員会の活動では、ビブリオバトルを開催し、児童の読書に対する意欲が高まってきていることも感じられる。 各学年、国語の学習単元と合わせて本の活用を進めてきていることがさまざまな成果物から分かる。 | <ul style="list-style-type: none"> 必読書を達成した児童には、第2弾の必読書を進めていくことで、継続して読書の質を高めていく。 読書量の少ない学年については、図書室に行く回数を増やすために、授業中や週に1回行くなど意図的に声かけを行う。 国語科以外の他教科でも積極的に資料の活用を進めていくことができるように、担任、司書教諭、教科担任、司書と情報交換をしていく。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 各学年の必読書の見直し、選定を行い、読破低学年100%、高学年80%、年間100冊以上借りるといふ全校目標の達成者100%を目指す。 子どもの学習のニーズに応えられるよう、読書環境を整備し、学校図書館を学習・情報センターとしての機能も高めていく。 | | |
| 保健教育（高林） | 〈自分の身体や健康に関心を持ち、生活改善を図る〉 | <ul style="list-style-type: none"> 全項目〇の児童は80%以上で目標達成できた。「はやね」「テレビ・ゲーム」は他の項目と比べると低い結果であった。また、睡眠前の過ごし方は、ゲームや動画視聴をしている児童が多い傾向にあった。 健康診断でむし歯の罹患率と肥満の児童の割合が多い結果となった。むし歯は受診が必要な児童に個別の保健指導を実施した。 肥満の解消に向けて学校保健委員会でエアロピクスを実施した。運動の楽しさや運動の効果を理解する良い機会になった。 | <ul style="list-style-type: none"> 2学期は、「はやね」の項目を95%以上を目指す。ゲーム機器やタブレットから出ているブルーライトの影響や睡眠の効果について夏休み明けに保健指導を実施していく。掲示・保健だよりでのお知らせや「はやねの大切さ」を健康委員会の活動に取り入れるなど全校児童に啓発していく。 テレビ、ゲームやメディアの視聴や利用時間の調査をし、実態把握を行う。 むし歯の予防のため2学期から食後の歯磨きを全校児童で実施する。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 2週間に1回生活習慣チェックを行い、全項目〇の児童80%以上を目指す。 生活習慣チェックや健康観察、保健室利用、欠席状況等から児童の健康課題を把握し、改善を目指す。健康課題解決に向けて、学校保健委員会で講師を招き講義してもらうことや、児童の健康委員会の取り組みを定期的に保健だより等で啓発していく。 | | |
| 家庭地域との連携（嘉宮・山前） | 〈地域や家庭と連携し効果的な学習活動を仕組む〉 | <ul style="list-style-type: none"> 生活科や総合的な学習の時間で「町のせんせい」を取り入れることで、児童の感想や成果物から地域に関心を持ったことが分かった。また、学年によっては、今後、学んだことを発信していくことを計画している。 保護者アンケート「発行されるおたよりやお知らせで学校の様子や必要な情報がわかる」の項目で肯定的な回答は96.8%であった。 | <ul style="list-style-type: none"> 2学期には、学年に応じた発信をしていく。 学校からの教育活動の情報発信は、引き続き行っていく。また、地域の方の思いや願いを機会を見つけ、積極的に聞いていく。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 積極的に「町のせんせい」を生かした活動を学校教育に取り入れ、地域に興味関心を持ち、学んだことを発信していく。その際、地域に発信することを据えた学習計画を立てる。 通信などを通じて、地域や家庭に学校の教育活動について情報発信をしていく。 | | |
| ICT活用推進（木村） | 〈ICTを活用した授業〉 | <ul style="list-style-type: none"> 帯タイムに、学習用端末を使用する時間を設定し、Qubenaやキーボードなどのローマ字入力力の練習に取り組んだ。4年生以上は、ローマ字入力のスピードや正確性が上がった。 県の研修サポートを活用し、Teamsの活用について校内研修を実施でき、良い機会となった。授業でのICTの活用について、共有する時間を取った。 | <ul style="list-style-type: none"> 校内研修で学んだTeamsの機能を活用できるように、環境を整えていきたい。 Teamsやスカイメニュの機能を使いこなせるように、校内研修を進め、授業で実践できるようにしていく。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ICT指標に基づいて学年に応じた技能を身に付けさせる。4年生以上はローマ字入力の習熟を図る。 タブレット活用方法について、市のサポートを効果的に活用するなど校内研修を進め、教員のICT活用指導力を高める。 | | |
| 環境整備（山前） | 〈児童・職員が活動しやすい環境づくりに努める〉 | <ul style="list-style-type: none"> スクールサポートスタッフにより常に活動しやすい環境が保たれている。また、職員作業を行い、不要なものを廃棄するなどして整理整頓に努めている。 児童の作品や成果物には、教師の温かいコメントを記入し、学習過程であってもがんばっていることを認めている。また、掲示の仕方にも工夫が見られ、子供たちの意欲にもつながっている。 | <ul style="list-style-type: none"> 2学期以降もスクールサポートスタッフを活用して、活動しやすい環境を整えていくが、それと同時に教職員や児童も自分たちの活動環境であることを意識し、関わっていくよう心がけていく。 引き続き、児童が自主的に活動できるような教育環境を意識していく。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 物品の整理整頓に努め、活動しやすい環境を保つ。 個の良さを認めたり、児童が自主的に活動できるように教室環境に努める。 | | |

| | |
|---------|--|
| 学校関係者評価 | |
|---------|--|